

放課後児童サービス
児童発達支援評価表 (多機能)

保護者等向け

放課後

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見
環境・体制整備	① 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	19	17	1	
	② 職員の配置数や専門性は適切であるか	20	17		
	③ 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	19	17	1	
	④ 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	20	17		
適切な支援の提供	⑤ 児童発達支援計画には、児童発達ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	18	17	2	
	⑥ 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	19	17	1	
	⑦ 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	19	17	1	
	⑧ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	11	15	9	1 2
保護者への説明等	⑨ 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20	17		
	⑩ 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	20	17		
	⑪ 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	13	14	5	2 2 1
	⑫ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	18	17	2	
	⑬ 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	19	15	1 2	
	⑭ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	6	12	9 3 5 2	
	⑮ 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	19	16	1	

非常時等の対応	⑭ 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	19	17	1			
	⑮ 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	19	15	1 2			
	⑯ 個人情報の取扱いに十分注意されているか	19	15	1			
	⑰ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	15	12	5 5			
満足度	⑱ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16	13	4 4			
	⑲ 子どもは通所を楽しみにしているか	19	17	1			
	⑳ 事業所の支援に満足しているか	19	17	1			

事業所名		Fire★works		支援プログラム（参考様式）		作成日		2025 年		6 月		1 日	
法人（事業所）理念		小さな学校Fire★works 花火のようにキラキラ輝き、自己発信ができる人に、場所になるように-かく（手●）みる（目●）きく（耳●）いう（口●）感じる（心●）五感で楽しみ、それぞれの長所を生かし、療育や教育をする中で“生きる力”を育てていきます。											
支援方針		●つくる：好きなこと探し 書（書道・硬筆・書ART）、English Lesson、絵画、粘土、ダンスなどの活動を通じて、星のまたたき・花火のかげやきにも似た「うれしい!」「たのしい!」の気持ちに寄り添います。 ●つながる：コミュニケーションのかたち つくる活動を通じて、気持ちを伝えたり、大切にしたりする体験を重ねる。他者との距離感や、自分の大切なものを知っていく。生活スタイル ●くらし：社会体験活動を通じてスキルアップする中で、暮らしを丁寧に想像し、積み重ねていく。											
営業時間		9 時	30 分	18 時	0 分	送迎実施の有無		あり					
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	身体的および精神的健康の向上が重視されます。子どもが健全な生活習慣を身につけることや、心の安定を保つことが大切です。基本的な生活スキルを取得することは、自立への第一歩であり、他の発達領域とも深く関連しています。 （トイレトレーニング、調理実習、理科の実験や制作）											
	運動・感覚	身体能力の向上や感覚の発達に焦点を当てています。体を動かすことによって、子どもたちは自己信頼を高め、自己表現の場を広げることができます。この領域での成長は、言語能力や社会的スキルにも良い影響を与えます。 （スノーズレンルーム、ボルタリング完備、大神子海岸各公園、札所など活動しながら体力増進）											
	認知・行動	論理的思考や問題解決能力を養うためのキーポイントとなるのがこの領域です。創造性や探求心を育む活動が特に重要視されており、認知・行動の発展は、社会生活を営む上で大切な要素となります。 （制作活動全般、SST）											
	言語コミュニケーション	言語の理解力や表現力を強化する支援が行われます。言語能力の向上は他者との円滑なコミュニケーションを促進し、将来的なさまざまな社会的状況での成功に寄与します。 （英語、中国語などグローバルに富んだ授業展開、世界の風習を学ぶ授業、各レッスンに合わせた平仮名カタカナ漢字を産す）											
	人間関係社会性	他者との良好な関係を築くために必要な社会的スキルを発達させることが、この領域の主な目的です。社会性の向上は、集団内での適切な行動を可能にし、今後の社会生活における重要な基盤となります。 （社会体験：鑑染体験、ハレルヤキッチン工場見学、科学センター、ワンダーランド、インドアパーク、淡路島牧場、市場見学、防災センターなど）											
家族支援		子どもたちおよびその家族の意見やニーズをしっかりと組み込むことが求められます。具体的には、子どもたちがどのように感じているのか、どのようなサポートが必要かを探ること、また家族が抱える課題を理解し、それを支援に活かすことが不可欠です。このプロセスが、有意義で実質的な支援につながります。家庭は支援において非常に重要な役割を担っています。家族との良好なコミュニケーションを築くことで、支援の効果が高まり、家族の意見を考慮した支援計画が策定できます。このように家庭との連携を強化することで、子どもたちにとってより良い環境が整えられます。 ・応用行動分析、ABA ・人的物的構造化 ・ドロップスカード ・個別プログラム				移行支援							
地域支援・地域連携		・教育機関・保育施設：日常的な教育や支援を行い、状況を把握するために継続的な情報交換を行います。 ・医療機関：子どもの健康状態を監視し、必要な医療サービスを提供するために健康情報を共有します。 ・発達支援センター：特別な支援が必要なお子さんに対し、具体的なプログラムを提供します。 ・相談支援：相談を受け、ご家族の負担を軽減する役割を果たします。 関係機関との連携は、それぞれの専門性を活かした支援体制を構築するために重要です。教育機関、医療機関、発達支援センターなどとの情報共有や役割分担によって、子どもとその家族にとってより質の高い支援が提供できるように努めます。				職員の質の向上							
主な行事等		●季節に合わせた知識・学習や画材制作、イベント、社会体験、調理などを企画しています。また、英語に絡めて、世界の伝統も学んでいます。 ●春 ひな祭り（3月3日）・ホワイトデー（3月14日）・お花見（主に3月下旬～5月上旬）・イースター（4月・日付は毎年変わる）・大神子海岸ハイキング（4月～5月ごろ） 子どもの日（5月5日）・母の日（5月の第2日曜日） ●夏 父の日（6月第3日曜日）・七夕（7月7日）・花火大会・水遊び感覚統合・夏祭り・阿波踊り、徳島駅探検 ●秋 十五夜（9月頃）・敬老の日（9月第3日曜日）・ハロウィン（10月31日）・七五三（11月15日）・秋探検紅葉（9月～11月）・プラネタリウム ●冬 クリスマス（12月25日）パーティ・クラシックコンサート・大掃除・事納大晦日（12月31日）・お正月（1月）・節分（2月3日）・バレンタインデー（2月14日） 新年祈願・書初め・初詣・道路に合わせて地域探検											